

平成 25 年度全国学力・学習状況調査結果の概要

喜茂別町教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査日 平成 25 年 4 月 24 日(水)

(2) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することにより学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(3) 調査の内容

調査対象学年	教科に関する調査			生活習慣・学習習慣等質問紙調査
小学校 6 年	国語 A・B	算数 A・B	・ A 問題 主として「知識」に関する問題	・ 児童生徒に対する調査 (質問数:小学校・中学校 各 86 問) ・ 学校に対する調査 (質問数:小学校 99 問、中学校 96 問)
中学校 3 年	国語 A・B	数学 A・B	・ B 問題 主として「活用」に関する問題	

(4) 調査の方式 悉皆調査

2 教科に関する調査結果

(1) 小学校平均正答率



教科・領域		平均正当率 %			
		北海道	全国	喜茂別町	
				北海道対比	全国対比
国語A		60.4	62.7		
領域	話すこと・聞くこと	45.2	43.2		
	書くこと	50.1	53.0		
	読むこと	60.5	60.1		
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	60.5	62.6		

教科・領域		平均正当率 %			
		北海道	全国	喜茂別町	
				北海道対比	全国対比
国語B		46.4	49.4		
領域	話すこと・聞くこと	62	64.8		
	書くこと	40.4	43.8		
	読むこと	44.9	47.9		
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	60.9	63.8		

教科・領域		平均正当率 %			
		北海道	全国	喜茂別町	
				北海道対比	全国対比
算数A		74.9	77.2		
領域	数と計算	77.8	80.2		
	量と測定	65.5	68.3		
	図形	70.4	72.5		
	数量関係	81.7	83.4		

教科・領域		平均正当率 %			
		北海道	全国	喜茂別町	
				北海道対比	全国対比
算数B		54.0	58.4		
領域	数と計算	43.5	48.3		
	量と測定	51.3	56.0		
	図形	77.3	79.3		
	数量関係	50.1	54.9		

備考

1 「平均正当率等」の欄中、喜茂別町の矢印は、全国及び北海道の平均正当率と本町の正当率を比較し、本町の数値がそれぞれの数値を上回っている場合は、で、下回っている場合はで示しています。

なお、網掛けの矢印は、全国及び北海道と本町の平均正当率の差が5ポイント以上あることを表しています。

2 本町では、児童・生徒が少ないことなどの理由により、平均正当率は公表しません。

3 領域とは、学習指導要領で定めている指導領域をいいます。

【調査結果のポイント:小学校 国語】

「知識」に関する問題	「活用」に関する問題
<p>「知識」に関する問題では、全般的には良好な結果であったが、「読む力」に関する問題の正答率が低かった。また、問題の形式では、選択式と短答式の問題は良くできているが、記述式の正答率が低くなった。</p> <p>1 の「漢字を読む」問題は、よくできていた。特に、読みの問題は3問あったが、いずれも全国、北海道の正答率を上回った。「漢字を書く」問題は3問あったがそのうち1問(委員会をもうける)では正答率が9割を超え全国、北海道を大きく上回りよくできたが、他の2問は全国、北海道の正答率を下回った。</p> <p>2 の「ことわざの意味を理解する」問題は、2問とも全国、北海道の正答率を上回った。</p> <p>3 の「文の定義を理解する」問題では、全国、北海道の正答率よりも10ポイント程度下回っており、言葉についての理解に課題が見られる。また、無回答率も全国、北海道より10ポイント以上高い。</p> <p>4 の「目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書く」問題では、短答式問題は良くできているが、記述式問題では全国、北海道の正答率を10ポイント程度下回るとともに、無回答率が4割を超え全国、北海道の2倍となっており、書くことを苦手としている傾向がみられる。</p> <p>5 の「マナーに関する広告を読み、編集の仕方の特徴を捉える」Aの問題では、全国、北海道の平均正答率を下回り、読む力と言葉についての理解に課題がみられ、無回答率も全国、北海道よりも10から15ポイント高かった。</p> <p>6 の「俳句の情景を捉える」問題は、わずかに全国、北海道の平均正答率を下回り、文章を読む力に課題が見られるとともに、無回答率も高かった。</p>	<p>「活用」に関する問題では、全国、北海道の平均正答率を下回り、特に書く力がついていないという課題が見られ、国語への関心や意欲を高めるとともに、低学年から書くことへの指導の充実が必要である。</p> <p>1 の「相手の立場や状況を感じ取って聞く」選択式の問題については、正答率も9割程度と、全国と北海道平均を大きく上回った。しかし、「話し手の意図を捉えながら聞き、効果的に助言する」記述式の問題では、全国の平均正答率を10ポイント以上下回り、文章で答える問題を苦手としている。</p> <p>2 の「目的や意図に応じ、必要な内容を適切に書き加える」及び「目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書く」問題では、全国と北海道の正答率を大きく下回り、無回答率も高かった。複数の条件に即して書くことが難しいということがわかる。</p> <p>3 の「2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉える」Aの問題では全国と北海道の平均正答率を10ポイント以上下回った。同じく、イ及びウの問題でも全国の平均正答率を下回ったが、特に無回答率が高く、文章を読み比べるなど分析力を高めるため、いろいろな本を読むことや、自分の考え方などをまとめる力が求められる。授業や生活の中で、書くことを重視する指導の工夫が必要である。</p>

【調査結果のポイント:小学校 算数】

「知識」に関する問題	「活用」に関する問題
<p>「知識」に関する問題では、7割の問題で全国及び北海道の平均正答率を上回り、おおむね良好な結果であった。領域別では、「数と計算」「量と測定」「数量関係」では理解が進んでいるのに比べて、「図形」をやや苦手としている。四則計算の力は定着している。</p> <p>1 の問題は、計算問題が7題あるが、少数・整数ともに基礎的な計算は定着しているといえるが、その中では少数の乗法の正答率が低くなっている。分数の加法及び乗法は100%の正答率となった。計算問題における無回答率は0であった。</p> <p>2 の「1万の位までの概数にしたときに、20000になる数を選ぶ」問題では、全国と北海道の平均正答率を10ポイント以上下回り、数量についての理解に課題がみられる。</p> <p>5 「1アールと等しい面積になる正方形の一辺の長さを選ぶ」問題では、全国及び北海道の平均正答率を大きく上回ったが、「台形の面積を求める式と答えを書く」問題では、正答率が低かった。台形の面積を求める公式は、現行の学習指導要領で新たに採り入れられたが、理解がいま一步である。</p> <p>6 「三角形ABCと合同な三角形を書くことができる条件を選ぶ」問題の平均正答率は、全国よりも10ポイント程度下回り、合同な三角形を書いたり、作ったりして理解させることが求められる。</p> <p>7 の「円柱について、見取り図の高さと展開図に示された側面の長方形の縦の辺の長さを書く」問題の平均正答率は高かったが、同じく底面の円周の長さや展開図の側面の長方形の縦の辺の長さを求める」問題の平均正答率はやや下がり、立体図形に関する理解を深めることが求められる。</p> <p>8 の「200cmの50%に当たる長さ」や「500gの120%に当たる重さ」を求める問題の正答率は高く、割合の考え方に関する理解力は高かった。</p>	<p>「活用」に関する問題では、全国及び北海道の平均正答率を下回り、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域全てで下回った。与えられた条件をもとに、筋道を立てて考え理由を記述することに課題が見られる。</p> <p>1 「残りの乗り物券の枚数と乗る予定の乗り物を基に、二人がまだ乗る予定になく一緒に乗ることができる乗り物を書く」「三つの乗り物券の買い方を比較して、どの買い方が一番安いかを選択し、そのわけを書く」問題では、全国及び北海道の平均正答率よりも低く、筋道を立てて考え、理由を説明することを苦手としている。</p> <p>2 「実験の結果から、ふりこの長さが10往復する時間が比例の関係になっていないことを表の数値を基に書く」問題は、平均正答率が全国よりも10ポイント以上低く、根拠となる数字を示して説明することに課題が見られる。</p> <p>4 の「ワールドカップ後の1試合あたりの観客数がワールドカップ後の1試合あたりの観客数の約何倍になるのかを求める方法と答えを書く」問題の平均正答率が低く、単位量あたりの大きさを求める意味を理解する力に課題がある。「5列10番の座席の位置を基に、2列4番の座席の位置を表す」問題は9割以上の正答率であり、ものの位置の表し方を理解し、特定する力がついている。</p> <p>5 「帯グラフに示された割合と基準量の変化を読み取り、インターネットの貸し出し冊数の増減を判断し、そのわけを書く」問題の正答率は5割程度であり、割合が同じで基準量が増えているときの比較量の大小を判断し、その理由を記述することに課題はあるが、全国及び北海道の平均正答率を上回った。</p>

(2) 中学校平均正答率



教科・領域		平均正当率 %			
		北海道	全国	喜茂別町	
				北海道対比	全国対比
国語A		76.0	76.4		
領域	話すこと・聞くこと	77.9	77.6		
	書くこと	63.7	64.5		
	読むこと	79.3	80.0		
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.2	77.5		

教科・領域		平均正当率 %			
		北海道	全国	喜茂別町	
				北海道対比	全国対比
国語B		66.2	67.4		
領域	話すこと・聞くこと				
	書くこと	61.6	62.7		
	読むこと	66.4	67.8		
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.4	64.6		

教科・領域		平均正当率 %			
		北海道	全国	喜茂別町	
				北海道対比	全国対比
数学A		62.3	63.7		
領域	数と計算	70.3	72.7		
	量と測定	63.4	64.6		
	図形	58.1	58.7		
	数量関係	46.5	46.8		

教科・領域		平均正当率 %			
		北海道	全国	喜茂別町	
				北海道対比	全国対比
数学B		39.1	41.5		
領域	数と計算	37.7	41.7		
	量と測定	44.2	44.8		
	図形	37.9	40		
	数量関係	40.5	42.2		

備考

1 「平均正当率等」の欄中、喜茂別町の矢印は、全国及び北海道の平均正当率と本町の正当率を比較し、本町の数値がそれぞれの数値を上回っている場合は、で、下回っている場合は  で示しています。

なお、網掛けの矢印は、全国及び北海道と本町の平均正当率の差が5ポイント以上あることを表しています。

2 本町では、児童・生徒が少ないことなどの理由により、平均正当率は公表しません。

3 領域とは、学習指導要領で定めている指導領域をいいます。

【調査結果のポイント:中学校 国語】

「知識」に関する問題	「活用」に関する問題
<p>平均正答率は、若干全国及び北海道を下回ったが、昨年度よりもその差が縮まった。しかし、全国及び北海道よりも平均正答率が低かった問題では、その差が大きく開いているものがあり、平均正答率を押し下げる要因となっている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域では良好な結果であったが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では正答率が低く、言葉についての知識・理解に課題がある。</p> <p>1 「話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす」問題 2 問のうち、司会の役割を理解することは全員が理解しているが、個々の発言の内容を整理しながら話し合いの方向を捉えて話すことには正答率が低く、全国及び北海道との差が開いており課題がある。</p> <p>3 「出された意見を整理して、決定の理由を適切に書く」問題の正答率が低く、文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確にして書くことに課題がある。</p> <p>8 漢字を正しく読む問題のうち、「異論」「連なる」は全員が正解したが、「風刺」を読めたのは4割であり、北海道の正答率の半分となっている。</p> <p>「今年の夏の暑さには閉口した」という適切な語句を選択する問題の正答率が特に低く、また、「二の足を踏む」という語句を選択する問題の平均正答率が全国及び北海道よりも20ポイント以上低く、言葉に関する理解に課題がみられる。</p> <p>敬語の働きについての理解を問う「母がイギリスに帰りました、という言い方が正しい理由として適切なものを選択する」問題及び「かすみや雲のように見えたものを本文中から抜き出す」比喻を用いた表現についての平均正答率が特に低く、伝統的な言語文化と言葉に関する理解に課題がみられる。</p>	<p>平均正答率は、全国を下回ったが、北海道をわずかに超えた。「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では良好であるが、「読むこと」をやや苦手としている。</p> <p>全国の平均正答率を下回った問題は次のとおり。</p> <p>1 「段落相互の関係について説明したもものとして適切なものを選択する」及び「図が示す内容を説明したもものとして適切なものを選択する」問題について、段落と段落の関係や図と文章の関係を捉えることに課題がみられる。</p> <p>2 「文章を読んで感じたことや考えたことを具体的に書く」問題をやや苦手としており、根拠を明確にして自分の考えや感じたこと具体的に書くことに課題がみられる。</p> <p>3 「資料がどのような疑問を解決するための参考になるのかを説明したもものとして適切なものを選択する」問題の正答率は5割であり、全国と北海道の正答率を20ポイント以上下回っている。情報を関連させて読むことについて課題がある。</p>

【調査結果のポイント:中学校 数学】

「知識」に関する問題	「活用」に関する問題
<p>「知識」に関する問題の平均正答率は、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のどの領域においても全国と北海道の平均正答率を上回り、良好な結果である。7割台の正答率が設問数の6割を超え、基礎的・基本的な知識が身につけていると言える。その中でも正答率が低かった問題は②以下のとおり。</p>	<p>「活用」に関する問題の平均正答率は、全国が41.5%、北海道の39.1%を大きく上回り、「知識」に関する問題とともに良好な結果である。しかし、資料を活用して必要な情報を適切に読み取ったり、数学的に解釈したりすることに課題がみられる。正答率が低かった問題は、次のとおり。</p>
<p>① は「分数の乗法の計算」「()を含む正の数と負の数の計算」「東京とカイロの時差を表す」数と式に関する正の数と負の数の意味について、よく理解している。</p>	<p>① 「安静時心拍数が年齢によらず一定であるとするときの目標心拍数の変わり方を選び、その理由を説明する」問題の正答率が3割程度であり、事象を解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。</p>
<p>② 「等式 $2x+3y=9$ を y について解く際に用いられている等式の性質を選ぶ」問題の正答率は5割であり、等式の性質を理解することに課題がみられる。</p>	<p>② 「2けたの自然数と、その数の十の位の数と一の位の数を入れかえた数の差が9の倍数になる説明を完成する」問題の正答率が3割程度であり、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明することを苦手としている。</p>
<p>④ 「角の二等分線の作図の根拠となる対称な図形を選ぶ」問題の正答率が3割であり、図形の対象性に着目して理解することに課題がみられる。</p>	<p>⑤ 「まとめ直したヒストグラムの特徴を基に、学級の生徒が美しいと思う長方形について新たにわかることを説明する」問題、「ヒストグラムでもっとも度数の大きい階級に含まれることになるものを選ぶ」問題の正答率が低く、資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に説明したり、事象を数学的に解釈することに課題がみられる。</p>
<p>⑤ 「与えられた見取図から、その立体の投影図を選ぶ」問題では7割を超える正答率でよくできているが、全国・北海道と比較すると10ポイント程度低く、空間図形を読み取ることにやや課題がある。 「球と円柱の体積を比較し、正しいものを選ぶ」問題の正答率が4割に達しなかった。⑤は図形に関する問題が3問出されたが、立体図形に対する理解に課題がみられる。</p>	
<p>⑨ 「y が x の関数である事象を選ぶ」問題の正答率は、1割程度と低く、関数の意味をよく理解することが求められる。</p>	
<p>⑭ 「6月の日ごとの最高気温の分布を表したヒストグラムから、ある階級の相対度数を求める」問題の正答率も1割程度と低く、ヒストグラムから相対度数を求めることに課題がある。</p>	

3 質問紙調査の結果 (1) 小学校

生活・学習習慣	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	普段(月～金曜日)、1日どれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか。同じく、テレビゲームをしますか	普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますが学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
	「同じくらいの時刻に寝ている」が全国で79%、北海道77%に対し本町は89%、「同じくらいの時刻に起きています」が全国で89%、北海道91%に対し本町は100%と、全国や北海道より10ポイント程度高い。	テレビ・DVD等の視聴時間は、全国及び北海道では、3時間以上が約40%であるが、本町では28%と10ポイント以上低く、テレビゲームの時間においても「3時間以上」は、全国15%、北海道が20%に対し、本町では6%と低い。	普段の勉強時間が「1時間以上」が、全国では約63%、北海道では約50%に対し、本町では17%と低い。学校が休みの日の勉強時間が「1時間以上」では、全国が57%、北海道が51%なのに比べ、本町では約45%と、普段及び休みの日ともに家庭での学習時間が少ない。
関心・意欲・態度	自分には、良いところがあると思いますか 将来の夢や目標を持っていますか	読書は好きですか 1日当たりどれくらい読書をしますか 学校図書、図書館・室にどれくらい行きますか	国語・算数の勉強は好きですか、内容はよく分かりますか
	「良いところがある」が、全国の35%、北海道の31%に対し、本町は約44%であり、自己肯定観が高い。しかし、将来の夢については、全国及び北海道ともに約70%以上が「持っている、どちらかといえば持っている」としているのに対し、本町では約67%とやや低い。	「好き、どちらかといえば好き」が全国・北海道ともに70%程度に対し本町は83%と高い。 1日あたりの読書時間が「1時間以上」では全国・北海道の17%に対し、本町は33%と16ポイントも高く、また、学校図書や図書室等に行く頻度が「月1回以上」においても全国45%、北海道39%に対し50%と高い。	国語が「好き、どちらかといえば好き」が本町では50%と、全国・北海道より8ポイント低いが、「よく分かる、どちらかといえば分かる」の割合は全国・北海道より5ポイント高い。算数の勉強が「好き」は56%で、全国・北海道より10ポイント程度低く、「よく分かる、どちらかといえば分かる」は72%と全国、北海道に対して4～8ポイント低い。
授業への姿勢	家で、学校の授業の予習をしていますか 家で、学校の授業の復習をしていますか	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるよう工夫して書いていますか	算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずいろいろな方法を考えますか 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか
	予習を「している、どちらかといえばしている」が全国では41%、北海道が45%であるが本町は61%と16から20ポイントも高い。しかし、復習では、全国が51%、北海道が59%であるのに対して本町は33%と18～26ポイント低い。	「組み立てを工夫している、どちらかといえば工夫している」が全国では57%、北海道が56%であるが、本町は39%と低い。 同じく「書いている、どちらかといえば書いている」は全国、北海道とも68%程度であるが、本町は約50%と15ポイント以上低い	算数の授業で、「いろいろな方法を考える、どちらかといえば考える」が全国では77%、北海道が75%であるが、本町は89%と高い。 公式やきまりの理解では、「理解するようにしている、どちらかといえば理解するようにしている」が全国と北海道では80%であるが、本町は約72%と低い。

今後の改善に向けた取組み

予習・復習・宿題などに取組む学習方法を指導するとともに、家庭と連携し家庭学習や読書習慣の定着のための取組みを推進する。
学力向上改善プランの見直しと確実な推進を図り、授業改善や習熟度別学習を進めるとともに補充学習を実施し学習事項の定着を図る。

(2) 中学校

生活・学習習慣	<p>朝食を毎日食べていますか 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか</p>	<p>普段(月～金曜日)、1日どれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか。同じく、テレビゲームをしますか</p>	<p>普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか、また学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか</p>
	<p>全国、北海道ともに93%であるのに対して、本町は75%と18ポイント低い。 「同じくらいの時刻に寝ている、どちらかといえば寝ている」が本町では38%と全国や北海道と比較して35ポイントも低い、「同じくらいの時刻に起きている」では本町では100%と、全国や北海道より40～60ポイント高い。</p>	<p>テレビ・DVD等の視聴時間が「3時間以上」が、全国では30%、北海道が32%であるが、本町は75%と高く、テレビゲームの時間が「2時間以上は、全国で28%、北海道が33%に対し、本町は38%となっており、突出している。</p>	<p>普段の勉強時間が「1時間以上」が、全国では69%、北海道では62%に対し、本町は皆無となっている。学校が休みの日に、全国及び北海道では約38～41%が「2時間以上」勉強しているが、本町では13%と低い。</p>
関心・意欲・態度	<p>自分には、よいところがあると思えますか 将来の夢や目標を持っていますか</p>	<p>新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか 読書は好きですか</p>	<p>国語・数学の勉強は好きですか、よく分かりますか</p>
	<p>「よいところがある、どちらかといえばある」が、本町は75%と全国や北海道に比べ10ポイント程度高い。 「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」が全国及び北海道がともに約70%であるが、本町では約75%と若干高い。</p>	<p>新聞やテレビのニュースなどに「関心がある、どちらかといえば関心がある」が、全国、北海道及び本町ともに約60%であり差が見られない。 読書が「好き」が、全国では45%、北海道の49%に対し本町は60%と高い。</p>	<p>国語の勉強が「好き、どちらかといえば好き」が全国及び北海道が57%から59%に対し、本町は50%と低い。数学が「好き、どちらかといえば好き」が本町は63%で、全国及び北海道より7ポイント高い。</p>
授業への姿勢	<p>家で、学校の授業の予習をしていますか 家で、学校の授業の復習をしていますか</p>	<p>国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるよう書いていますか、 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめごとに内容を理解しながら読んでいますか</p>	<p>数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか 数学の問題で解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。</p>
	<p>予習を「している、どちらかといえばしている」が、全国及び北海道は34%であるが、本町は13%と20ポイント程度低く、復習を「している、どちらかといえばしている」も、全国が49%、北海道が54%に対して、本町は25%と低い。</p>	<p>話の組み立てを「書いている、どちらかといえば書いている」が本町は50%で、全国・北海道より10ポイント程度低い。内容を理解しながら「読んでいる、どちらかといえば読んでいる」が本町では50%と、全国・北海道より15ポイント程度低い。</p>	<p>「いろいろな方法を考える、どちらかといえば考える」が、全国・北海道で約66%であるが、本町では50%と低い。 数学の問題で、「いろいろ考える、どちらかといえば考える」が本町は50%で、全国及び北海道より15ポイント以上低い。</p>



今後の改善に向けた取組み

学力向上非常勤講師を配置し、きめこまかな指導に努めるとともに、補充学習の実施により学力の定着を図る。
テレビ・ビデオ・DVDの視聴及びテレビゲームの時間が長いので、家庭と連携し、家庭における生活習慣の見直しを図る。
復習や予習などの家庭での学習時間が少ないので、定期的に家庭学習の取り組み状況を確認・指導し、学習習慣や読書習慣の定着を図る。